

## 上映スケジュール

11月30日(土) 10:00 - 長編① 12:00 - 短編①

14:00 - 長編② 16:00 - 短編②

12月 1日(日) 10:00 - 特別① 12:00 - 長編③

14:00 - 短編③ 16:00 - 長編④

12月 2日(月) 9:00 - 招待① 12:00 - 長編⑤

14:00 - 特集① 16:00 - 短編④

12月 3日(火) 10:00 - 長編⑥ 12:20 - 短編⑤

14:00 - 特集② 16:15 - 特集③

12月 4日(水) 10:00 - 特集④ 12:00 - 短編⑥

14:00 - 長編⑦

12月 5日(木) 10:00 - 長編⑧ 12:00 - 短編⑦

14:00 - 長編⑨ 15:45 - 短編⑧

12月 6日(金) 10:00 - 短編⑨ 12:00 - 招待②

14:15 - 特集⑤ 15:55 - 長編⑩

上映後各賞授賞式

\*各回、監督による舞台あいさつあり。トークイベントも開催予定。決定次第、映画祭のサイトやSNSで発表します。詳細は公式サイトをご覧ください。

### 【前売】

1回券 = 1,300 円

3回券 = 3,300 円 (期間中も販売)

### 【当日】

一般 = 1,500 円均一

シニア = 1,000 円 (いずれも税込)

## 特集 映像人類学の冒險

アカマタの歌  
海南小記序説/西表島・古見  
特集①  
12.2(月)  
14:00-



西表島古見村の豊年祭は、アカマタ・クロマタ・シロマタという仮面の来訪神が登場するが、一切の取材と研究が拒否されてきた秘祭。72年に監督らは祭祀の撮影に訪れたが「アカマタを撮ったら殺す」と拒まれた。その拒否のエネルギーの源を探るべく、カメラは17軒しかない村の家族のライフヒストリーを取材する。赤裸々な告白を含むため、長年封印されてきた映画が今そのベールを脱ぐ。

火と水と祝祭のバリ島  
大森康宏特集  
特集②  
12.3(火)  
14:00-



パリで映像人類学者ジャン・ルーシュに師事し、民族学博物館の製作で作品を撮り続けてきた、日本の映像人類学者の草分けである大森康宏。世界中で撮られた膨大な作品群のなかから、バリ島の伝統行事を撮った2本を上映。『ジョケット・ブンブン』では村人が生を堪能する祝祭的なダンスの場を、『土と火と水の葬送』では島の宇宙観を反映した葬送儀礼を撮り、島社会における陰と陽を際立てる。

エチオピアの芸能・音楽・湯依禮  
川瀬慈特集  
特集③  
12.3(火)  
16:15-



エチオピア高原を移動しながら軒先で唄い、乞い、見返りに祝詞を与える唄い手を追った『ラリベロッチ』。弦楽器マシンコを弾き語るアズマリの少年少女の姿を数年ごとに記録し、音楽職能を生きる人間の営みと葛藤を描いた『僕らの時代は』。中東から東アフリカに広がる憑依儀礼ザールにおける、人間と精霊の交感を荒々しく映しだす『精霊の馬』。気鋭の映像人類学者による珠玉の短篇集。

Ainuひと  
特集④  
12.4(水)  
10:00-



明治政府が同化政策と開拓を進めた結果、アイヌ文化は急速に衰退したが、北海道の日高地方平取町には今多くのアイヌが暮らしている。差別と貧乏を経験した人、伝統的な縫物をぬう人、祖母のカムイユカラ(口承文芸)を聞き覚えている人、イオマンテ(熊送り)などの儀礼を幼少期に見聞した人。文化伝承のために地域のリーダーとして活動し、生き証人でもある4人の「Ainu = ひと」を掘り下げる。

森のムラブリ  
特集⑤  
12.6(金)  
14:15-



タイやラオスの森で暮してきたムラブリ族は、400人しかいない狩猟採集民。消滅が危惧される彼らの言語を研究する学者・伊藤雄馬と村に入ったカメラは、定住化は進むが、互いの集団が「人食いだ」と言って対立する様を見る。インドシナ半島のゾミアたるラオスの山中で、いまだノマド生活を送る集団に接触すべく奥地に入り、世界初の撮影に成功する。そこで目撃された現代の遊動民が抱える問題とは?

公式 HP : [tdff-neoneo.com](http://tdff-neoneo.com)

twitter : @TDFF\_neoneo

Instagram : [tdff.neoneo](https://www.instagram.com/tdff.neoneo/)

Facebook : <https://www.facebook.com/tdff.neoneo/>

主催 : neoneo 編集室

お問い合わせメール : [tdff.neoneo@gmail.com](mailto:tdff.neoneo@gmail.com)

映画祭運営：伏屋博雄 金子遊 佐藤寛朗 若林良 大久保涉 吉田悠樹彦 宣伝：大久保涉  
メインデザイン：家田祐明 デザイン：菊井崇史 WEBデザイン：古谷里美 表紙写真：川瀬慈『ラリベロッチ』より

新宿駅東南口階段下ル 甲州街道沿ドコモショップ左入ル

**新宿 K's cinema**

03 (3352) 2471 [www.ks-cinema.com](http://www.ks-cinema.com)  
各回入替・整理券制

東京都新宿区新宿 3 丁目 35 – 13

JR 新宿駅 東南口 徒歩 3 分 東口 徒歩 5 分

●各回定員入れ替え制 ●上映開始後のご入場は、お断りさせて頂く場合がございます ●満席の場合は入場をお断りさせて頂く場合がございます ●作品により画像、音声が必ずしも良好でない場合がございます。あらかじめ了承下さい。



甲州街道

いまの社会を映しだす、ドキュメンタリー作品が集結!

長編10本、短篇25本のコンペ入選作がグランプリを競う!

審査員による選考のほか、みんなで選ぶ「観客賞」もあります

11/30sat---12/6fri



2019  
東京ドキュメンタリー映画祭

新宿K's cinema

長編コンペティション審査員:山崎裕(撮影監督) 鎌仲ひとみ(映像作家) 金子遊(批評家・映像作家)

短編コンペティション審査員:安岡卓治(映像プロデューサー) 佐藤寛朗(neoneo編集室)

ドキュメンタリー作品は世のなかを映しだす鏡だといわれます。今年は約140本の応募があり、つくり手が大きなテーマに取り組んでいる姿が印象的です。昨今の世相を反映してか、在日コリアン、アイヌ民族、沖縄、移民・難民など、広義の民族を扱った力作が目立ちます。東日本大震災から8年が経ちましたが、震災と幽霊、原発事故と疾病の問題など、震災ドキュメンタリーは深化をつづけています。個人の映像制作が可能になった影響もあるのか、ドキュメンタリー表現のスタイルに多様化が見られます。正統派のテレビ番組や記録映画の手法を使うものから、現代アート、Youtube、MV、SNS、フェイク・ドキュメンタリーを取り入れたものまで、いま国内で撮られている様々な作品が一堂に会します。

劇場で魅力的な作品と出会い、監督たちと対話し、翌年はみなさんがつくり手として、この映画祭にもどってきて下さい！

金子遊（「東京ドキュメンタリー映画祭」プログラム・ディレクター）

## 長編① 11:30㈯ 10:00-



大阪市生野区の朝鮮人学校の戦前から戦中、戦後へと続く差別と抵抗の歴史をたどり、ヘイトスピーチの裁判闘争など、現在も描く。何度も学校閉鎖の危機に直面するも、不屈の闘志は失わない。綿密な調査に基づき、インタビュー、写真、ニュース映像で振り返り、民族の誇りを活写。朝鮮学校の姿を知ることになる。民族舞踊に興じ、スポーツに熱中する若者の生き生きした姿がまぶしい。

## 長編② 11:30㈯ 14:00-



20歳の誕生日を迎えてすぐ、国内では最年少で性別適合手術を受け、女性から男性になった声優志望の小林空雅（たかまさ）さんを長期取材。世界最高齢で性別変更した90歳のチェリストの八代みゆきさん（男→女）や、無性のXジェンダーの人と出会いながら、小林さんが悩み、成長する姿を描く。そこから浮かびあがてくるのは、男性・女性という枠組みでは括りきれない多様な性あり方だ。

## 長編③ 12:1㈰ 12:00-



1930年代、北海道大学医学部の人類学者らは、浦河、浦幌などにあったアイヌ民族の墓を掘り返し、研究目的で遺骨を持ち去った。2012年から北大に遺骨や副葬品の返還を要求して抗議し、賠償を求めて地裁に提訴した小川隆吉さんらの活動を数年にわたって追う。集会やインタビューで当事者たちの声を丹念に集めて、遺骨を再埋葬したいと願う彼らの先祖に対する心根が少しづつ見えてくる。

## 長編④ 12:1㈰ 16:00-



「鐘崎の海で潜ってみたいね」と、対馬の東海岸・曲（まがり）集落で、82歳で海女を営む「おばちゃん」がつぶやいた。鐘崎とは、曲の海人のルーツといわれている福岡県宗像市の集落のこと。時代を超えた磯帰りを実現すべく、彼女は玄界灘を対岸へと渡る。海女に魅せられた監督自身も海に潜り、漁の様子を撮影しながらその旅に寄り添い、海に生きる女性たちの交流をまるごと描いた。

## 長編⑤ 12:2㈪ 12:00-



2011年4月、原発事故直後の鎌倉。かつて行われた脱原発パレードから派生し、盆踊りで平和の輪を描くことを目的とした「鎌倉イマジン盆踊り部」が結成された。そうした活動をはじめ、作品は生活の中に発酵の微生物の視点や、太陽系を縮小した円形の暦「地球暦」の概念を取り入れ生活する鎌倉の人々を捉える。そこには直線的な時間の流れに緩やかに対抗するよう、「円環する時間」が流れている。

## 長編⑥ 12:3㈫ 10:00-



1930年代から国策としての満蒙開拓で日本各地から約27万人が満州に渡り、終戦後、帰国がかなわず中国に生きた人々がいた。制作に6年以上を費やした本作は、日本の若い一人の女性が「中国残留婦人」のもとを訪ね、その交流の中から、彼女たちの声に耳を澄まし、過去と現在に迫っていく。「歴史」では語られ難い当事者の声によって、故郷を離れ生きざるをえなかった彼女たちの記憶が切実に、丁寧に綴られる必見作だ。

## 長編⑦ 12:4㈬ 14:00-



## 長編⑧ 12:5㈭ 10:00-



## 長編⑨ 12:5㈭ 14:00-



## 長編⑩ 12:6㈮ 15:55-



## 短編① 11:30㈯ 12:00-



## 短編② 11:30㈯ 16:00-



## 短編③ 12:1㈰ 14:00-



## 短編④ 12:2㈪ 16:00-



## 短編⑤ 12:3㈫ 12:00-



2007年の杉並区議会議員選挙においては、「ロスジェネ」と呼ばれた世代の、知られざる泡沫候補たちの戦いがあった。作品はトントデモ候補者とも言うべき彼らの、破天荒な選挙戦を追う。中心になるのは「素人の乱」の松本哉。彼の引き起こす行動は公職選挙法すれすれの際どさがあり、それゆえに「法」とは何かを問いかける逆説的な批評性も持ち合わせている。編集のパワフルさも出色的な選挙エンターテイメント映画。

変わりゆく認知症の妻を記録し続ける元調査屋の物語。マーケティング会社を仲間と立ち上げ、猛烈に働くが、いつしか家庭は崩壊。息子の言葉をきっかけに家庭再建を決意する。人生の道筋を繩文に求め、自給自足の生活を開始。米や野菜も調査することで、安定した収穫を得るようになる。そんな折、妻の縫子（ぬいこ）さんが認知症になり、奥さんを調査する傍ら、細やかな介護を始めた。

中国では殷周の時代から続き、日本とも交流を重ねながら、それぞれ発展を遂げてきた書道。しかし「字」の文化に基づいた歴史と伝統を重視する人々がいる一方で、アートとしての表現を志向する者もあり、彼らは批判にさらされたりもする。伝統と表現の狭間で一体何を目指すのか？ 中国芸術の研究家を父に持つ監督が、証言を中心に書家の日常も見せながら「書道とは何か」を考察する。

東日本大震災から5年、生き残った人々にとって、津波で犠牲となった死者の存在はどこにあるのかを「靈魂」をモチーフに描いた、フランス人監督によるユニークなドキュメンタリー。巨大な防潮堤の建設が蕭条と進み、3月11日には弔いの時間を共に過ごす三陸の被災地。その風景と同じ地平で、人々はその時間いた亡者の声を生き生き語り出す…。「3.11」に新たな視点をもたらす可能性に満ちた意欲作。

基地問題に揺れる沖縄の近況を描いたホットな2篇。『Reunite with My Past Self in Okinawa～沖縄で過去の自分と会って～』では、県民投票を呼びかける元SEALDsの元山仁士郎に、同じ沖縄出身の監督である比嘉が密着。若者や自身の父親との対話が描かれる。『沖縄から叫ぶ 戦争の時代』では、基地反対闘争のさなか、与那国、石垣、宮古そして奄美に着々と建設される自衛隊基地の問題にカメラがフォーカスする。

日本とインドの路上において、ヴィデオカメラを使ったコンセプチュアルな社会実験をおこなうトモトシの2編。古い写真から想起されたストーリーが物語られる『旅のあと記録』と、『夢十夜』を思わせるアニメーション作品『ユメみばなしにうつつ』。少年犯罪の起きたニュータウンで「風景論」的な映画を実践する『ANIMA』など、アート的なアプローチで撮られたドキュメンタリー作品を特集する。

脱資本主義的な暮らしを指向し、バーマカルチャー（自己維持可能な農業）を実践するスペインとイギリスの共同体を描く『ユートピア』。自閉症患者や障がい者を受け入れ、蜂飼いを通して生きることの価値を問う『ビューティフル・ビーキーパー』。生活と家庭を抱えながら、インドネシアのカリマンタンで森林保護活動をする人たちを取材する『森の守り人』など、森と農をテーマにした3作品が集結。

21世紀の難民や経済格差は重要な問題だ。「かぞくの証明」はエチオピアからの難民の生活を描いたドキュメンタリー作品。東京を舞台に、震災後の日本の現在に迫る。「ビニールハウスは家じゃない（This is not a house）」は韓国でビニールハウスを寮としててあがれ、冷暖房もない劣悪な環境での生活を余儀なくされる難民たちの現実を記録。この誰にも切実な問題を考えてみよう。

## 短編⑥ 12:4㈭ 12:00-



【芯言～ある演劇団員の証言】  
監督＝久保俊車 / 19分  
【私は何者であるのか】～ある台湾人学生の証言～  
監督＝松本泰理 / 19分  
【アンセストリーズ・メモリーズ】  
監督＝浅野拓人・ハイラン・カウコンゴン / 48分

## 短編⑦ 12:4㈭ 12:00-



【芯言～残された子ども～】  
監督＝ヤン・シリウ / 34分  
【ふたつの故郷を生きる】  
監督＝中川あゆみ / 65分

## 短編⑧ 12:5㈮ 15:45-



【出櫃（カミングアウト）～中国・LGBTの叫び～】  
監督＝厚溝清 / 49分 ※劇場版  
【大黒座ハイ・ブルース】  
監督＝演宣 / 45分

## 短編⑨ 12:6㈯ 10:00-



【酔いどれ東京ダンスマッシュ】  
監督＝長瀬由依 / 57分  
【劇場版三木はるか賞】  
監督＝三木はるか / 65分

## 短編⑩ 12:6㈯ 10:00-



【酔いひと】監督＝福原悠介 / 2019年 / 21分  
【石山さん】監督＝川田淳 / 42分  
【三道魔】ルースー消えゆく蒸気機関車と生きて】  
監督＝黄威盛 / 33分

## 特別① 12:1㈰ 10:00-



【土本典昭が見た東京】  
監督＝土本典昭 / 1962年 / 29分  
【ドキュメント路上】監督＝土本典昭 / 1964年 / 54分

## 招待① 12:2㈪ 9:00-



【水俣】の連作で知られる巨匠・土本典昭の若き日の2作品。『東京都』は高度成長期の地方から東京への人口流入を視座にした出色の東京論。テレビ用に制作されたが、スポンサーの異議で放送されなかった幻の作品。その2年後に制作された『ドキュメント路上』はタクシードライバーを主人公に、刻々と変貌する東京を描く。64年の五輪直前の作品で、東京はどこも道路工事の真っ最中だった。

## 招待② 12:2㈪ 9:00-



福島は語る  
©DOI Toshikuni  
監督＝土井敏邦 / 2018年 / 170分 ※劇場版  
監督＝土井敏邦 / 2018年 / 170分 ※劇場版

## 招待③ 12:6㈮ 12:00-



【小さな声のカノン】  
監督＝鎌仲ひとみ / 2014年 / 114分

## 招待④ 12:6㈮ 12:00-



二本松市に住む佐々木るりさんは、原発事故の後も福島に止まり、子供たちを放射能の影響から守る努力をしている。幼稚園に全国から支援の野菜が届き、園児の母親たちの間に手伝いの輪が広がる。一方、チャレンジノブリ原発事故を経験したベラルーシでは、低線量の汚染地域で暮らすシングルマザーによる子供の被ばくを避ける取組みを取材。長編コンペの審査員をつとめる鎌仲監督の長編映画。

## 招待⑤ 12:6㈮ 12:00-



戦後中国残留婦人考  
問緑・愛緑  
監督＝王乃真 / 2018年 / 135分

## 招待⑥ 12:6㈮ 12:00-



アジアと戦争  
監督＝岩崎祐 / 2019年 / 214分

## 招待⑦ 12:4㈭ 12:00-



戦後74年、わずかに生き残る先の大戦の経験者を現代の若者がとらえた3篇。東京で開かれる満蒙開拓団の慰靈祭で出会った、日本に帰國後も故郷を追われるを得なかつた老人。日本人として動員され特攻隊に志願するが、終戦後は戦勝国・中国人として扱いを受けた元台灣人学徒。激戦地ビルマの戦跡をミャンマー人学生と共に訪ねながら聞いた、村の古老たちの証言。それぞの話が耳に残る。